

「秋を告げる道」

083 桜丘中学高等学校

秋が深まり始めた頃、私は街道を車で一人旅していた。

訪れたことのない道を進むうちに、次第に違和感を覚え始めた。

「……あれ？ 周りがやけに静かだなあ」

そう思ったときには、すでに山道に差しかかっていた。夜ということもあり、辺りは暗く閑散としていたが、引き返すわけにもいかず、そのまま進み続けた。

どれくらい走っただろうか。突然、自分の視線より高い位置を何かが横切った。

気になった私は車を路肩に停め、周囲を見回した。すると、山の中へと続く一筋の赤や黄色の光が、どこまでもまっすぐに伸びていた。